

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	テオクリトス 第三歌「コーモス」
Author(s)	八木橋, 正雄
Citation	プロピレア , 30 : 69 - 72
Issue Date	2024-12-30
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00055887">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00055887</a>
Right	Copyright (c) 2024 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



テオクリトス 第三歌 「コーモス」

八木橋 正雄 訳

アマリュリスのために歌おう。  
私の山羊たちは山に草を食んでいて、  
テイテイルスが追い立てている。  
テイテイルスは私の愛する友  
山羊たちに草を食ませ、導いている。  
テイテイルス、泉のほうへ、  
気をつけておくれ、リビアの白い牡牛、  
あなたを角でつつかれないうちに、  
おお、うるわしきアマリュリス  
なぜ、この洞窟で、伺い知るがごとく隠れ住み、  
もう私を呼ばないのか、恋人よ。

五

私を憎んでいるのか、きらっているのか、  
おおニュンフよ。  
私はそんなに、鼻が低い、あごひげが不精ひげに  
見えたのかしら。  
あなたは私に首をくくらせるよ。  
でも、あなたに十個のリンゴを持ってきた、  
あそこで摘んできた、あなたが摘めといった  
ところから、  
あなたのために、明日ももってこよう。  
ごらん、私の胸を張りさく苦しみを、もし、  
ブンブン鳴くミツバチなら、  
あなたの隠れる洞穴へ、キヅタとシダをぬけて  
入っていくときのよう。  
今、エロース神を識る、それは恐ろしい神。  
恐らく、牝ライオンの乳を吸い、森でその母親に  
育てられた神。  
それが私をやつれさせる、骨まで傷つける。  
ああ、どんなに苦しむのか、不幸な私は、あなたに  
はわからないのか。  
あなたは素敵な目差し、石のような洞穴ななかで、  
黒い瞳の眉毛の乙女、

この羊飼いを抱擁しておくれ、接吻させて

おくれ、

キリツとした接吻にも快いよろこび。

二十

この花冠を引き裂いて粉々にするの、あなたが  
為したものを。

愛するアマリュリスのために、キヅタにバラの

つぼみと、

良い香りのするセロリを絡み併せて花冠を

つけている。

ああ、なんとという苦しみだろう、情けない。あなた

は耳を傾けない。

上着を脱いで波に飛び込もう、

漁師オルピスがマグロを見張っている。

もし私が死んでも、あなたには快さが得られよう。

このあいだも、あなたが愛しているかどうか、

ケシの果をたたいても音がしなかった、

腕のやわらかいとところでしぼんでしまった。三十

篩いまじない師アグロイオも、穂をあつめながら、

この近くを歩いていたとき、

ほんとうのことを言った、私はあなたに首つたけ

だけ、

あなたは、私のことなど気にかけてはいない。

しかし私はあなたのために飼っていた、

二匹の子の親の牝山羊を、

召使いのメルムノンに雇われている黒い顔の

召使いがほしがっている、

あの牝山羊を召使いにあげてしまおう。

なぜって、あなたが私を蔑ろにするから。

右の目が震える。彼女に会えるのだろうか、

この松の下で歌を歌おう。

鋼じやないのだから、彼女は私を見てくれる

かもしれない。

ヒッポメーネスが乙女と結ばれようと、

四十

手にリングゴを持ち、競走を駆け抜け、

アタランタはそれを見るいなや、

狂気にとりつかれ、激しい恋に落ち込んだ。

予言者メランプスもオトウリュスから

ピュロスへと牛の群れを追い立て、

ピアスの両腕に抱かれたのは、やさしい母で

とても慎重なアルペシボイア。

そしてアドニス羊たちを連れて山々を巡り、

美しいキュテラ生まれのアフロディテは  
駆り立て、  
アドニスが死ぬまで胸に抱かせていない  
だろうか。

また、エンデュミオンも永遠の眠りについていて、  
それは私の羨むところ。

また私の望みは、いとしき乙女よ、イアシオン。

五十

彼が得た数多のものは、おお、不信心な人々には  
解らないでしょう。

私は頭が痛い。

でも、あなたにはどうでもいいこと。

私はもう歌を止めよう、

横になったままで、ここで狼たちに食べられて、

永遠の眠りにつくだろう。

でも、あなたには快いこと。

蜂蜜が喉に快いように。

(ローマ字翻字)

#### AIPPOLOS E KOMASTES

komasdo poti tan Amaryllida, tai de moi aiges  
boskontai kat'ros, kai o Tityros aytas elaynei.  
Tityr', emin to kalon pephilemene, boske tas aigas,  
kai poti tan kranan age, Tityre, kai ton enorchan,  
ton Libykon knakona, phylasseo me ty korypsheyi. 5  
o chariess' Amarylli, ti m' oyketi toyto kat' antron  
parkyptoisia kaleis, ton erotylon? e ra me miseis?  
e ra ge toi simos kataphaionomai eggythwn emen,  
nympha, kai progeneios? apagksasthai me poeseis.  
enide toi deka mala phero, tenothe katheilon 10  
o m' ekeley kathelein ty, kai ayrion alla toi oiso.  
thasai man, thymalges emin achos. aithe genoiman  
a bombeysa melissa kai es teon antron ikoiman,  
ton kisson diadys kai tan pterin ha ty pykasdei.  
nyn egnon ton Erota, barys theos, e ra leainas 15  
mazon ethelazen, drymoi te nin etraphe mater,  
os me katasmyxon kai es ostion achris iaptei.  
o to kalon pothoreysa, to pan lithos, o kyanophry

nympha, prosphtyksai me ton aipolon, os ty phileso, kai ke m' isos potidoi, epei oyk adamantina estin.  
 esti kai en keneoisi phlemasin adea terpsis 20 Hippomenes, hoka de tan parthenon ethele gamai,  
 ton stephanon tilai me kataytika lepta poeseis, 40 mal' en chersin elon dromon anyen, a d' Atalanta  
 ton toi egon, Amarylli phila, kissoio phyllasso, os iden, os emane, os bathyn halat' erota.  
 ampleksas kalykessi kai eyodmoisi selinois. tan agelan cho mantis ap' Othryos age Melampoyss  
 omoi egon, ti patho, ti o dysssoos? oy ch ypakoyeis. 25 es Pylon, a de Biantos en agkoinaisin eklinthe  
 tan baitan apodys es kymata teno aleymai, hoper tos thnnos skopiazetai Olpis o gripeys, mater a chariessa periphronos Alpheisiboiass. 45  
 kai ka me pothano, to ge man teos ady tetuktai. tan de kalan Kythereian en oresi mela nomeyon  
 egnon pran, oka moi, memnamenoi ei philleis me, oy ch oyros Odonis epi pleon agage lyssas,  
 oyde to thlephilon potemaksato to platagma, ost' oyde phthimenon nin ater mazoio titheti?  
 all' autos apaloi poti pachei eksemaranthe. 30 zalotos men emin o ton atropon ypnon iayon  
 eipe kai a graia talathea koskinomantis, Endymion, zalo de, phila gynai, Iasiona, 50  
 a pran poiologeyssa Paraibatis, oynek' ego men hos tosson ekyresen, hos oy peyseis the, bebaloi.  
 tin olos egkeimai, ty de mey logon oydena poiei. e man toi leykan didymatokon aiga phyllasso,  
 e man man kai a Mermononos erithakis a melanochros tan me kai a Mermononos erithakis a melanochros  
 35 aitei, kai doso oi, epei ty moi endiathryptei. os meli toi glyky touto kata brochthoio genoito.  
 alletai ophthalmos men o dekios ara g' ideso (text:Theocritus [Idylls.Selection]/ Hunter, Richard-  
 aytan? aiseymai poti tan pityn hod' apoklintheis. Cambridge U.P.-1998)